

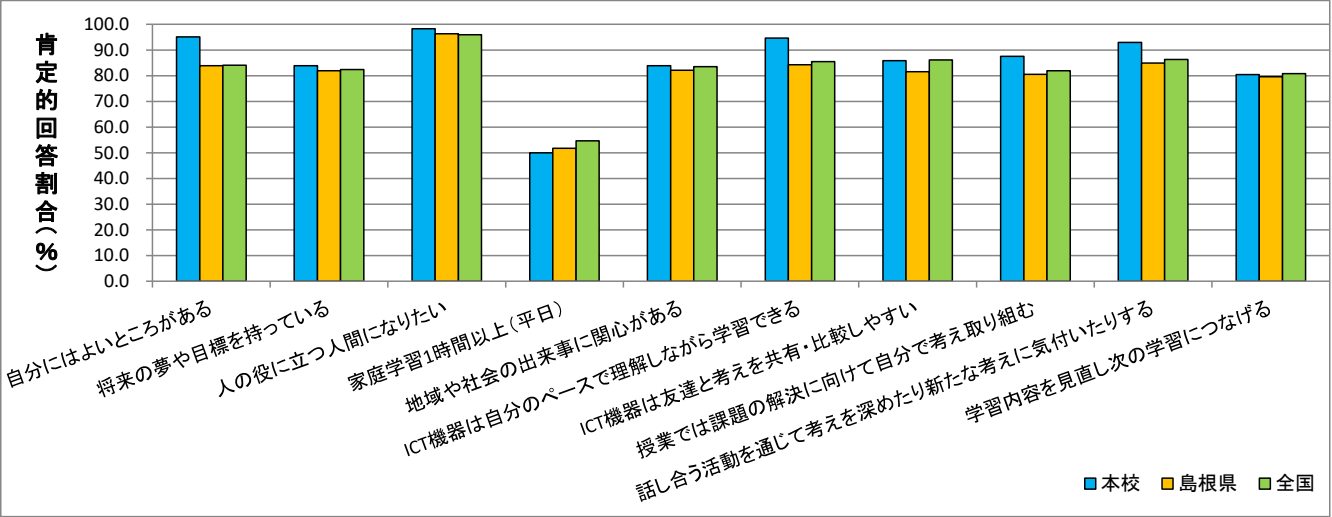
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○教科全体の正答率は、全国平均、県平均を3ポイント程度上回り、内容別では、言語に関する知識・技能、書くこと、読むことの正答率が、4～5ポイント上回っている。 ●主語と述語の関係をとらえる問題が、全国平均、県平均をかなり下回っており、主語・述語の理解に課題がある。 ●記述式の問題の正答率が高くなく、問題によっては無回答率が多くなるなど、記述式の問題にやや課題がある。	・3、4年生での主語、述語、修飾語の学習をより充実させるとともに、高学年での文章の理解、読み取りにあわせ、主語・述語の復習を適宜行う。 ・書く内容や文字数など条件に合わせた短作文を書く機会を、国語の学習をはじめ他の教科でも積極的、継続的に取り入れる。
算数	○領域別で見ると、「数と計算」と「図形」の正答率は、全国平均とほぼ同程度であり、県平均を2ポイント程度上回っている。 ●小数でわる計算、速さを求める問題などが、全国平均、県平均をかなり下回っており、知識・技能が十分定着していない学習内容があると考えられる。 ●正答率の分布を見ると、中位層が少なく下位層が多くなっており、学力層の二極化が見られる。	・小数のかけ算・わり算、速さ、割合など、特に5年生の学習内容が十分定着するよう指導の工夫を図るとともに、プリントを活用した繰り返しの学習などにより知識・技能の定着を図る。 ・TT(ティーム・ティーチング、複数教員による指導)や特別支援教育スタッフによる個別支援などをより充実させ、下位層の学力向上、定着を図る。

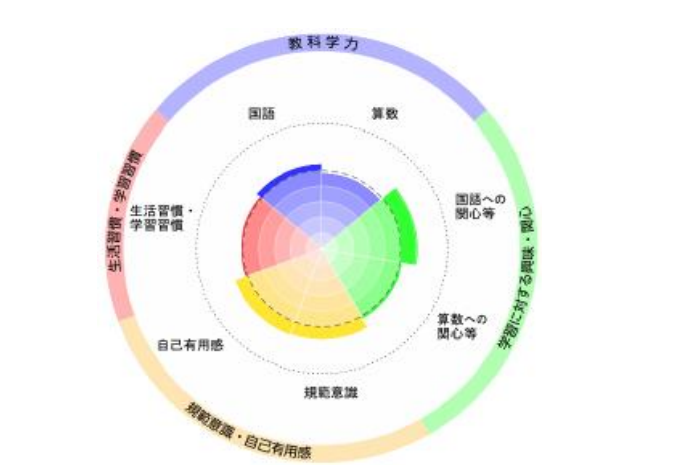
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○「自分にはよいところがある」「夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」などの質問で肯定的割合が高く、自己有用感や将来に向けての意欲があるといえる。 ○「自分のペースで理解しながら学習できる」「友達と考えを共有・比較しやすい」など、ICT機器の有用性を感じている児童が多い。 ●平日1時間以上、家庭学習に取り組む児童の割合が低い。 ●「算数の勉強は好きか」「算数の授業内容が分かるか」という質問で肯定的割合が低く、国語との意識の差がある。	・学年に応じ適切に宿題・課題を出すとともに、目標時間や学習内容例を示した「家庭学習のてびき」を配付し、家庭学習に対する児童・保護者の意識を高める。 ・各学年の算数の指導をより充実させ、「分かる授業・できる授業」を増やすとともに、TTや個別支援により一人ひとりの学力、学習意欲の向上を図る。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・毎月定例の漢字書き取り会や計算大会の事前の練習を大切に、漢字や計算を着実に身につけさせるようにする。
- ・簡単な足し算、引き算、かけ算九九、簡単なわり算など、高学年の計算でも必要となる基礎的技術の定着をめざし、ミニプリントの学習やマス計算などに全校あげて取り組み、児童自ら伸びを実感できるようにする。
- ・児童が興味をもち有用性を実感しているICT機器を効果的に活用し、知識・技能、思考力・表現力を身に付けさせる。

【受検者数】
58 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。